CODE 海外災害援助市民センター
2017 年度　事業報告

【1. 海外災害地への救援活動事業】

＊2017 年度より、継続プロジェクトと終了予定プロジェクトを明確に表記し、各プロジェクトの事業終了予定時期の項目を追加した。終了予定時期は、一応の目標であるが、その時点で継続の必要性があれば、理事会の協議を経て決定する

項目	番号	プロジェクト名	開始時期	終了予定時期
●継続プロェクト	1	アフガニスタン救援プロジェクト	2003 年	2022 年度末
	2	中国・四川省地震救援プロジェクト	2008 年	2018 年度末
	3	東日本大震災救援プロジェクト	2011 年	2020 年度末
	4	ネパール地震救援プロジェクト	2015 年	2020 年度末
●終了予定プロジェクト	5	ハイチ地震救援プロジェクト	2010 年	2017 年度末 ＊次年度 持越し
	6	青海省地震救援プロジェクト	2010 年	2017 年度末 ＊次年度 持越し
●終了プロジェクト	7	インドネシア・ジャワ中部地震 救援プロジェクト	2006 年	2017 年度末 ≪終了≫
	8	フィリピン台風 Haiyan 救援プロジェクト （JICA 草の根技術協力事業へ移行）	2013 年	2019 年度末 ＊移行

●継続プロジェクト

事業名	1-(1)アフガニスタン救援プロジェクト
実施日時	2003 年～継続中
実施場所	アフガニスタン・カブール州ミールバチャコット県、パンジシール州
受益対象者の範囲及び予定人数	①　ぶどう畑再生支援事業 ミールバチャコット地域の約 2500 世帯。これまで本事業の融資で直接裨益した農業従事者は 550 世帯（2018 年 3 月時点）。
実施内容	①　ぶどう畑再生支援事業 ・これまでの経緯 2003 年から上記の地域でコーポラティブシューラ（ぶどう生産者協同組合）を立ち上げ、

	300 万円を原資として 288 世帯への小規模融資をスタートした。融資を受けた世帯はこれを返済し、また新たな世帯に貸し付ける仕組みである。これにより、延べ 550 世帯が融資を受けた（2018 年 3 月末時点）。カウンターパートである NGO「SADO」には毎年プロジェクト管理費を支援している。 2007 年から 2009 年の 3 年間は JICA 草の根技術協力事業（地域提案型）に採択され、農家の方々を日本に招いて有機農業技術の研修を行った。その成果で収穫高も増加してきたが、2010 年頃から主要な市場であったパキスタンへの輸出が閉ざされ、販路の開拓が最大の課題となっている。これに対し、インド市場を開拓するために現地メンバーと CODE によるデリー訪問を計画したが、2012 年度、2013 年度中には有力な取引先候補が見つからず、他国も含めて検討することとした。 2013 年 2 月に開催した 10 周年記念シンポジウムでは、中国・四川省、ハイチのカウンターパートとともに、SADO のラフマンさんをパネリストとして日本に招待した。これをきっかけに、「日本フェアトレード委員会」（熊本市）の関係者とつながり、ミールバチャコット産の有機干しぶどう（レーズン）を日本で商品化することとなり、2014 年 3 月より 1 パック（100g）550 円で販売を開始した。 ・現状 2003 年、288 世帯を対象にスタートしたコーポラティブシューラ―（ぶどう協同組合）はこの 14 年間で 550 世帯（2018 年 3 月末時点）まで拡大している。 この 10 年でミールバチャコット地域に帰還した住民も多く、人口は増えている。本来この地域には 5000 世帯の人口があるが、約 2000 世帯はカブール市の郊外に住み、またパキスタンやイランに出稼ぎに行っている人も少なくない。 現在、年間 50t のレーズンが組合に加盟している農家によってつくられているが、1/3～1/4（10t～15t）が有機栽培で作られている。 近年は、天日干しからレーズンハウス（貯蔵庫）で作るようになってきているが、ハウスは高額で多くの人は購入できない。 通常、生のぶどうを収穫後すぐに売り、余ったものをレーズンにするが、生は 14kg＝120 アフガニ（2＄）と非常に価格が安く、レーズンは 1kg＝1＄と高くなる。 ほとんどの農家は、100 アフガニ（1.5＄）から 500 アフガニ（7.5＄）ほどの少額を組合に返済しているが、2016 年度、組合は 50000 アフガニ（750＄）を回収し、新たな 10 世帯に各 5000 アフガニ（75＄）を貸し出している。現在、180 世帯が返済できていない状況が起きている。 依然として販路であったパキスタンとの国境は閉鎖され、物資の 95%を外国に依存するアフガニスタンは、国内で物資不足のため価格高騰を引き起こし、市場に大きな影響を及ぼしている。 CODE が輸入しているレーズンは、ミールバチャコットの協同組合の総生産量の 0.2～0.3%ほどではあるが、食と国際協力やイベントなどでこのレーズンを通じてアフガニスタンの現状を知ってもらう機会になっている。 だが、2017 年 6 月に長年カウンターパートとして CODE と共に歩んできたラフマンさんが交通事故により亡くなられた。その後、そのご子息の Fardin さんがレーズンの日本へ

の輸出を行ってくれることとなった事により従来通り事業の継続が可能となった。

今後、新たに災害が起きた場合の対応については、現在、Fardin さんを通じてぶどう協同組合（シューラ―）に問い合わせている状況である。

また、この数年来、現地のレーズン原価や輸送費が徐々に上昇してきたことから、2018 年 1 月より日本での販売価格 100g/550 円を 650 円とした。

（1）ミールバチャコット産有機レーズンの日本での販売

2013 年 12 月に 20kg のレーズンの輸入を開始し、2014 年 3 月から 1 袋 100g の真空パックの販売を開始した。2017 年度は、60 kg（20 kg×3 回）を輸入し、販売した。これにより、これまでに総計 460 kgを輸入・販売してきた。

以下がこれまでの輸入・販売実績：

2013 年度　20 kg　（11 月輸入スタート）
2014 年度　220 kg　（50 kg×2 回、40 kg×1回、20 kg×4 回）
2015 年度　80 kg　（20 kg×4 回）
2016 年度　80 kg　（20 kg×4 回）
2017 年度　60 kg　（20 kg×3 回）
総計：　460 kg

アフガニスタンのレーズンは、味に定評をいただき、規模はまだ小さいが、確実に販売実績を伸ばしてきている。2015 年 8 月より個別注文以外の委託販売も始まった。ケペスという東京でフェアトレードのドライフルーツをネット販売している会社の岡本玲子さんが、毎月 30p～50p（3 kg～5 kg）の定期購入をしてくれている。

その他、「れーずんの会」、レーズンのイベント販売などを通じてアフガニスタンの状況を知ってもらう機会を複数設けてきた。

〇イベントでのレーズン販売

2017/4/20　第 32 回食と国際協力「アフガニスタン」で講義（村井理事）
6/7　コープこうべ第 3 地区福祉サークルリーダー連絡会で販売（吉椿）　＊4-(4)と重掲
7/2　灘チャレンジでブース出展（吉椿、頼政、今中）
7/29　コープこうべ平和の集い（上野）　＊4-(4)と重掲
11/25　コープこうべ第 3 地区活動本部ボランティア交流会　＊4-(4)と重掲
JICA 関西映画鑑賞会×ネパールバンド公演会（吉椿、高橋）　＊4-(4)と重掲
12/23　ワンワールドフェスタ　for YOUTH（吉椿、上野、高橋）　＊4-(4)と重掲
2018/2/3　ネパール地震活動報告会 IN モンベル（吉椿、高橋、立浪、今中）　＊1-（4）と重掲

（2）食と国際協力などでのアフガニスタンの現状を知る機会の提供

これまでに「れーずんの会」や「食と国際協力」で年 2 回、レーズンを使った食を味わい

	ながら、アフガニスタンの状況を発信する機会を作ってきた。 ＊これまでの食と国際協力（れーずんの会）の開催状況（講師はいずれも村井理事） 第 1 回食と国際協力（れーずんの会 1） 2014/3/28 参加者 18 名 第 2 回食と国際協力（れーずんの会 2） 2014/4/25 参加者 19 名 第 8 回食と国際協力 （れーずんの会 3） 2014/10/16 参加者 11 名 第 13 回食と国際協力(れーずんの会 4) 2015/4/16 参加者 9 名 第 18 回食と国際協力(れーずんの会 5) 2015/11/19 参加者 8 名 第 22 回食と国際協力 2016/4/14 参加者 12 名 第 32 回食と国際協力 2017/4/20 参加者 8 名 第 41 回食と国際協力 2018/4/19 参加者 11 名

事業名	1-(2)中国・四川省地震救援プロジェクト
実施日時	2008 年 5 月 13 日～継続中
実施場所	四川省地震被災地域
受益対象者の範囲及び予定人数	四川省北川県光明村村民約 700 名および周辺住民
実施内容	＊これまでの経緯 2008 年の四川大地震直後から CODE はスタッフの吉椿を現地に派遣し、北川県光明村において、アジア各国のボランティアたちとガレキの片づけ、仮設住宅建設補助、村祭り開催などの活動を行いながら、被災者に寄り添って来た。 その後、診療所と村役場を併設した「総合活動センター」建設プロジェクトが政府の都合により変更せざるを得なくなったが、新たに「老年活動センター」建設プロジェクトを提案し、2011 年 6 月に着工、9 月に完成した。 センターは村の中心部 4 組の森に囲まれた場所で、駐車スペースなど総面積約 1000 平米、築面積約 380 平米の規模で、釘を一本も使わない木造軸組構法で建築され、中国の伝統木造様式である三合院（3 棟が中庭を囲むようなコの字型のデザイン）で、中には村の高齢者の語らいの場、女性たちの踊りの練習の場、子どもの遊び場にもなっている。センター中央は住民の会議や祭りやイベントの場として活用され、緊急時の避難所としての役割も持っている。 2011 年 3 月の東日本大震災では光明村を始めとする四川の被災地からたくさんのはがき、横断幕、ビデオなどのメッセージや義捐金 2 万 8000 元（約 36 万円）が届いた。 2011 年 9 月の完成後、鍵の引き渡し式の際には、芹田代表理事やコープこうべの秦理事（当時）らにもご列席いただき、盛大に式典が催された。 その後、防腐のためのニス塗りも行い、現在は村民たちが自立に向けてセンターを「農家楽（中国式アグリツーリズム）」として活用している。

	2012 年 3 月には、金沢大学との協働で光明村の被災者 3 名を日本に招き、能登半島地震（2007）や東日本大震災の被災地を訪問し、被災者との交流を行った。 2013 年 2 月には CODE10 周年記念シンポジウムに光明村の彭廷国医師が来日し、四川地震における CODE との活動を語った。その後、アフガニスタン、ハイチのゲストと共に東日本大震災の被災地も訪ね、被災者や支援者との交流を行った。10 周年シンポジウムの際に行った若者のポスターセッションで優勝した神戸大学の学生を四川省の被災地に案内し、被害や復興について学んでいただいた。 2013 年 9 月には、北京より農家楽の専門家である王橋女史（中国社会科学院）を光明村にお招きし、ワークショップを開催した。農家楽の運営を如何に住民参加型で行うかが語られ、今後、住民を巻き込んだ運営の一助となった。その後、センター前に蓮の池を使った釣堀を造成し、毎日約 20 名ほどの観光客が来ており、少しずつではあるが、センターの運営も軌道に乗ってきていたが、村長が職を辞した事や道路整備、出稼ぎ住民の多さなどの理由から、未だ安定した状態にはない。 2014 年より民間レベルによる今後の日中災害救援における連携を深めるために日中の NGO やボランティアが共に学び合う場を企画し、2015 年 3 月、6 月に日中 NGO・ボランティア研修交流事業を実施した。3 月の第 1 回は日本の学生 6 名が四川の被災地を訪問し、光明村で桜の木を絆の象徴として記念植樹した。また、6 月には第 2 回として四川の NGO 関係者を日本に招聘し、日本の学生と共に神戸、中越を訪問、視察し、専門家による講義を受け、今後の災害救援において連携を深める事ができた。 2016 年は、第 3 回日中 NGO・ボランティア研修交流事業を実施し、日本の若者 6 名が四川省を訪れ、被災地の視察、被災者との交流、NGO との学び合いを行った。同年は、元 CODE ボランティアの岸本くるみさんにご協力いただき防災教育を通じて NGO や社会的企業との交流を行い、現地の NGO は日本の防災教育の教材に非常に関心を示している。 2017 年度は、これまで 3 回の日中 NGO・ボランティア研修交流事業によって、2017 年度 6 月に「中日減災・防災国際交流事業」（以下）を実施し、中国の学校関係者や NGO スタッフ 23 名を招へいし、神戸で防災教育に関する研修を行うに至った。 また、2018 年 3 月には第 4 回日中 NGO・ボランティア研修交流事業（以下）を実施した。今年度は神戸女子大学、関西学院大学、神戸大学、愛媛大学など十代の学生を中心に四川の被災地を訪問し、防災教育を行う雅安市興賢小学校での防災教育の交流を行った。また、四川省防災・減災教育館では、日中での防災教育の研修について議論を交わす事ができ、今後の計画に大きな示唆を得た。 2018 年 3 月 22 日からは、未来基金フィールドワーク「食による村おこし」の企画で神戸大学生 4 名が、四川省の被災地を訪れ、食や文化を学び、光明村の農家楽運営を共に考えた。その中で、村のひとりの女性の素食（ビーガン・菜食）などを使った農家楽の特色にするなど新たな可能性なども見えてきた。 ＊中日減災・防災国際交流事業 期　間：2017 年 6 月 20 日（火）～25 日（日）5 泊 6 日 場　所：兵庫県神戸市内 参加者：23 名（四川省成都市・雅安市、上海市、北京市）

	市レベルの教育局の職員、NGO のプロジェク 7 校の学校の校長や教師など 16 名、国際 NGO セーブ・ザ・チルドレン（北京）のスタッフ 5 名、四川省の NGO メンバー2 名） 訪問先：東灘小学校、舞子高校環境防災科、神戸市教育員会、人と防災未来センター 講　師：永田宏和氏（プラスアーツ代表）、岡田洋一氏（神戸市教育委員会指導主事）、梶木典子氏（神戸女子大学）、諏訪清二氏（防災アドバイザー、元舞子高校環境防災科科長）、矢守克也氏（京都大学防災研究所教授） 主　催：NGO 備災センター（四川省成都市）担当：張国遠（代表） 共　催：国際救助児童会（Save the Children Beijing） 日本側受け入れ機関：（特活）CODE 海外災害援助市民センター ＊第 4 回日中 NGO・ボランティア研修交流事業 日　時：2017 年 3 月 12 日～3 月 19 日（9 日間） 場　所：中国四川省の被災地 参加者：井村翠（神戸大学 1 年）、折原佳奈（関西学院大学 1 年）、清水七海（神戸女子大学 2 年）、高橋大希（愛媛大学 2 年、CODE インターン）、成安有希（関西学院大学ボランティア活動支援センター）、岸本くるみ（人と防災未来センター）の若者 6 名 訪問先：雅安市興賢小学校、映秀鎮（震源）、桃坪チャン族村、光明村、北川県地震遺構 内　容：被災地復興の視察、被災者へのヒアリングと交流、NGO と防災教育交流（小学校訪問や四川省防災・減災教育館の視察）、少数民族の伝統集落訪問など ＊CODE 未来基金四川フィールドワーク　＊7-(5)と重掲 日　時：2018 年 3 月 22 日～3 月 30 日（8 日間） 場　所：中国四川省の被災地（光明村など） 企画者：西本楓（神戸大学 2 回生） 参加者：神戸大学 4 名（西本楓、田口春香、石川睦巳、久保陽香） 同行者：吉椿雅道（CODE 事務局長） テーマ：「食による村おこし」 内　容：医食同源の故郷である中国で食や食文化を学び、それを活用して被災地での地域おこしを考える。 訪問先：光明村、映秀鎮（震源）、桃坪チャン族村、北川県地震遺構、吉娜チャン族観光村 ＊2017 年度の主な動き： 5/9～18　四川第 28 次派遣（吉椿） 6/14　JICA-壱基金防災減災訪日団への講義（吉椿） 6/20～25　中日減災・防災国際交流事業のアテンド（吉椿） 10/4　NGO 備災センターの張国遠さん来神（吉椿、上野、高橋、成安） 10/13　未来基金四川フィールドワーク打合せ（西本さん、吉椿）　＊7-(5)と重掲 11/8～15　四川第 29 次派遣（吉椿）

	12/1　日中 NGO・ボランティア研修交流事業の事前説明会打合せ（井村さん、吉椿） 12/5　未来基金四川フィールドワーク打合せ（西本さん、吉椿） 2018 年 1/31　未来基金四川フィールドワーク事前説明会（吉椿、上野）　＊7-(5)と重掲 1/23　第 4 回日中 NGO・ボランティア研修交流事業の事前説明会 （成安さん、岸本さん、井村さん、折原さん、清水さん、高橋、吉椿、上野） 2/2　未来基金四川フィールドワーク打合せ（西本さん、吉椿、上野） 2/16　第 4 回日中 NGO・ボランティア研修交流事業の事前学習会 （成安さん、岸本さん、井村さん、折原さん、清水さん、高橋、吉椿、上野） 2/22　未来基金四川フィールドワーク事前学習会（吉椿、上野）　＊7-(5)と重掲 3/1　第 4 回日中 NGO・ボランティア研修交流事業の事前ミーティング （成安さん、岸本さん、井村さん、折原さん、清水さん、高橋、吉椿、上野） 3/5　未来基金四川フィールドワーク打合せ（西本さん、吉椿、上野）　＊7-(5)と重掲 3/12～19　第 4 回日中 NGO・ボランティア研修交流事業で四川を訪問 （成安さん、岸本さん、井村さん、折原さん、清水さん、高橋、吉椿） 3/22～30　未来基金四川フィールドワークで四川を訪問 （西本さん、久保さん、田口さん、石川さん、同行：吉椿）　＊7-(5)と重掲 4/1　未来基金活動報告会を開催 （室崎副代表、村井理事、村上理事、吉椿、上野、高橋）

事業名	1-(3)東日本大震災救援プロジェクト
実施日時	2011 年 3 月 14 日～継続中
実施場所	東日本大震災被災地
受益対象者の範囲及び予定人数	
実施内容	CODE は、東日本大災害発生後、いち早く東日本支援を表明し、支援金を集めた。2011 年度は、CODE に集まった支援金を、発足以来連携している被災地NGO協働センターを通して被災地支援に活用して貰うとともに、2011 年 4 月 1 日から半年間同 NGO にスタッフ二人を出向させた。また、金沢大学と連携し、2012 年 3 月末に中国四川省から被災者 3 名、カウンターパート 1 名を招聘し、東日本の被災地への訪問と交流を行い、帰国前日には CODE 関係者などと交流会を行った。 2012 年度（2013 年 2 月）には 10 周年シンポジウムのために招聘したアフガニスタン、中国・四川省、ハイチのゲスト 3 名が、東日本大震災の被災地を訪問し、被災者間の交流および情報交換を行った。 2013 年、フィリピン台風被災地の一部が高潮の被害で漁業が大きな被害を受けた事から、東日本大震災の被災漁村との交流を模索してきたが、未だ実現には至ってはいない。 2017 年度も東日本の被災地の厳しい状況を被災地NGO協働センターと共有し、状況に応じて対応する体制をとり、必要に応じて海外の被災地と東北をつなぐ役割を担っていく。

事業名	1-(4) ネパール地震救援プロジェクト
実施日時	2015 年 4 月 25 日～継続中
実施場所	ネパール中部、東部のシェルパ族の村など
受益対象者の範囲及び予定人数	ネパール地震の被災者　約 3500 人
実施内容	●地震発生からの経緯 　ネパールでは、81 年ぶりに大規模な地震（M7.8）に襲われた。ネパール全 75 郡のうち 39 郡が被災し、うち 29 郡が大きな被害を受けた。被害の概要は以下のとおり。 死者 8650 名、被害家屋約 77 万棟、被災者約 810 万人（国民の約 3 分の1）。 　CODE は元スタッフ、斉藤容子さんや故黒田裕子理事の団体の元ボランティアの井上想さん、神戸在住のネパール人、ラクパ・シェルパさんなどのつながりを通じてネパールにスタッフ 2 名（吉椿、上野）を派遣し、調査を行った。この派遣によってネパールの伝統建築家、篤農家、日本人医師、山岳民族シェルパ族のコミュニティなどとの関係を築いた。 その後、雨期対策としてラクパさんの故郷のグデル村でテントシートを配る「CODE3000 プロジェクト」を行った。その後、この村は、アクセスが悪く支援が届いていない事から CODE は石、木、竹、泥などの地元の資材を使った耐震住宅再建を行い、地元の大工、石工たちがモデルハウス建設を通して耐震技術を学ぶ「耐震住宅再建プロジェクト」を決定した。 ＊耐震住宅再建プロジェクト 　2015 年末より耐震住宅再建プロジェクトが本格始動した。2015 年末から京都建築専門学校の学生、山本耕資さんを派遣し、日本とネパールの大工の技術交流を行った。また、2016 年 1 月より Khwopa 工科大学のモーハン・パント先生のご協力により建築の専門家 2 名を派遣し、現地の大工、石工たちに耐震の指導を行った。約 13 名の大工・石工がこのプロジェクトにかかわり、中でもニマ・シェルパさんはこれを機に村に戻り、大工として生きていく事を決意した。モデルハウスは、2016 年夏に完成し、約半年間をかけた大工・石工たちの学びの場となった。ここで耐震技術を学んだ大工・石工たちは、その後チームに分かれて 26 棟の住宅を再建した。2017 年 3 月には 26 棟の耐震住宅が完成した。グデル村での復興庁の調査では好評をいただき、地元ソルクンブ郡のラジオでも取り上げられた。 　2017 年 2 月には西宮の「夢広の会」の支援する同郡パタンジェ村のコミュニティセンター建設プロジェクトでも、北茂紀さんに耐震構造の指導をいただき、グデル村からニマさんなど大工 2 名が 2 回現地に指導に行った。その状況は、ネパール第 6 次派遣で確認した。 　2017年度は、グデル村のメンバーを連れて、被災地であるシンドパルチョーク郡チョウタラの住宅再建の状況を視察したが、グデル村での住宅再建後の現地の状況やニーズが、生活や収入の向上に重きを置いており、CODE にプロポーザル（申請書）が来たことから、シャーレ地区の「シェルパ村落開発改善委員会」と収入向上のプロジェクトについてついて協議をし、現地ではすでにバザールの開設や果物の試作などの動きが始まっている。

	＊2017 年度の主な動き: 4/26 ラリーグラス五十嵐さん来所（吉椿） 5/25 夢広の会との打ち合わせ（村井理事、吉椿、上野） 7/5 東京大学大学院、保坂さんネパール地震ヒアリング（吉椿） 7/28 ラクパさんとネパールプロジェクトの打合せ（吉椿） 8/18 日本サッカー協会、ネパールナショナルチームへの活動紹介（吉椿） 9/24 夢広の会ネーパール支援報告会に参加（吉椿） 9/26 ラクパさんとネパールプロジェクトの打合せ（吉椿） 11/16 第 37 回食と国際協力「ネパール」で報告 （ニマ・シェルパさん、ラクパ・シェルパさん） 11/25 JICA 関西映画鑑賞会＆ネパールバンド公演でブース出典（吉椿、高橋） 12/20 チームひょうごネパール地震報告会で報告（吉椿、高橋） 2018 年 1/18 ネパール地震報告会 in モンベルの打合せ（吉椿、高橋） 2/3 ネパール地震報告会 in モンベルで報告（立浪、今中、高橋、吉椿） ＊6-(2)と重掲 2/7～14 ネパール地震第 7 次派遣（吉椿） 2/16 兵庫県立大学減災復興シンポジウムで登壇（吉椿） 4/9 神戸新聞ネパール地震 3 年の取材（吉椿） 4/16 プラスアーツ JICA草の根事業（ネパール）報告会に参加（吉椿）

●終了予定プロジェクト

事業名	1-(5)ハイチ地震救援プロジェクト
実施日時	2010 年 1 月 13 日～継続中
実施場所	ハイチ共和国ポルトープランス、ラプレン、レオガン周辺
受益対象者の範囲及び予定人数	ポルトープランス、ラプレン、レオガン周辺住民
実施内容	① CODE 海外研究員・クワゥテモックさんの派遣（2010 年度～2011 年度） 地震直後より、メキシコから CODE 海外研究員のクワゥテモックさんを派遣し、レオガンを中心に支援プロジェクト立案のための調査に入った。海外からの NGO と地元の医師などで Ayuda a Haiti というネットワークを立ち上げ、移動診療所やコミュニティ FM のサポートを幅広く展開した。また、孤児院をまわってレクリエーションを実施するなど孤児のケアにも尽力した。 ② ACSIS への支援（2010 年度～2012 年度） 2010 年 4 月にはラプレンを拠点に活動する被災者団体 ACSIS の緊急物資配布に対して資金面から協力を行った（50 万円）。その後、ACSIS は被災者の生業支援として露天商にチャレンジする女性起業家を中心にマイクロフィナンス事業をスタートさせた。これは、貧しい女性を対象に事業再建資金を融資し、被災によって途切れた収入の回復を支援するものである。2011 年 1 月、約 128 万円（約 15,200 ドル）を送金し、40 人の女性に 100～500

	米ドルが融資された。2012 年 8 月の訪問では、融資を利用した女性たちが商品や道具を仕入れ、小売店や食堂を再開あるいは起業し、暮らしを立て直している様子をヒアリングできた。初回の完済率は対象者の 7 割程度であり、回収した資金でさらに新たな融資が行われた。しかしその後、体調不良などが原因で返済できない人が増え、回収が困難となる状況もあった。 ③ 日本ハイチ協会」拠点支援（2013 年度～2015 年度） 同会は地震後よりポルトープランスで日本語教室や日本文化教室を実施してきた NGO で、2012 年後半からそれまでの拠点が利用できなくなるという状況であった。新たな拠点の家賃 3 年分を支援し、女性や子どもが集まる場として利用していただくとともに、ハイチにおける支援団体がネットワークづくりに活用いただくこととした。2012 年 9 月、計 15,220 ドル（年間 5000 ドル。約 130 万円）を送金した。現在、文化交流など各種イベントが行われている。2015 年末で日本ハイチ協会は、運営不振のため事務所を移転した。 ④ シンポジウムパネリストとして GEDDH 事務局長への招へい（2012 年度） 2012 年 2 月 2 日に開催した 10 周年記念シンポジウムに GEDDH のジャン・クロード・レフェルブさんをパネリストの一人として招き、東日本大震災被災地である岩手県、宮城県を訪れ、被災者との学びあいを行った。 ⑤ 「GEDDH」農業技術学校支援（2012 年度～） ハイチで結核治療に取り組んで来た日本人医師でシスターの須藤昭子さん（クリスト・ロア宣教修道女会）と 2010 年に出会い、シスターの設立した NGO「GEDDH」の農業を支援する話が当初から出ていたものの、2011 年、先方から辞退の申し入れがあったため一端白紙に戻した。しかし、2012 年 8 月の訪問前に再びその話が持ち上がり、現地でシスター須藤と GEDDH とのミーティングを経て、農業技術学校（ETAL）の建設を支援することが決定した。GEDDH には学校運営の経験が無いことから、2013 年 5 月現地や海外の関係者を含む顧問会（※）が設立され、この顧問会を ETAL の運営組織とすることが決まった。 2013 年 7 月に予算約 900～1000 万円で着工したが、8 月に土地の契約や顧問会内での役割分担をめぐる議論が生じ、一時中断となった。12 月、協定が再度まとまり、建設再開の目処が立った。ETAL 名義での銀行口座が開設できしだい送金し、再着工する。シスター須藤の協力で在ハイチ日本大使館からの備品協力支援は次年度に持ち越すことになった。 その後、シスター須藤や Bourget 氏（カナダの農業専門家）、在ハイチ日本大使館の方などの協力により両者の調整を行い、2013 年 12 月に新たな契約書が交わされ、ようやく建設が再開される目途が立ち、顧問会の一人であるカナダの Sylvio さんが、ハイチで再開に向けた調整を行ってくれたので、その詳細な報告を受け、2 度目の送金を行った。 2014 年 9 月にはシスター須藤を神戸にお招きし、講演会を行い 80 名の方にお越しいただいた。これによりハイチの現状のアピールする事が出来、参加費やカンパなどの寄付（約 10 万円）などもあった。その後もシスター須藤の聖心女学院での講演料などを寄付していただいた。2015 年 3 月にも毎日新聞大阪社会事業団から「世界子ども救援金」として

	ハイチ支援に 40 万円の寄付をいただいた。 　その後 2014 年 9 月に 3 度目の送金を行い、2016 年 3 月現在、学校は完成し、5 月中旬には開校式を行う予定である。一方で 2014 年 10 月より顧問の一人である Blot さんの職業訓練学校（CCFPL）の校舎を借りて、授業を開始している。現在 17 名の学生が農業を学んでいる。 　2015 年度は、（2016 年 3 月に）災害看護支援機構（DNSO）の視察に同行して、農業技術学校の進捗状況を確認する予定であったが、2 月頃から現地の大統領選に伴うデモ活動によって治安が著しく悪化し、渡航が厳しい状況となった。また、3 月に中南米でヂカ熱の感染が流行し、ハイチで感染者が出たことにより、DNSO と相談の結果、ハイチ訪問を見合わせる事となった。 　2016 年度も、災害看護支援機構（DNSO）との協議により先述の理由で渡航・視察が見合された。2016 年 10 月にはハイリケーン・マシューが発生し、ハイチでも約 1000 名の死者を出し、現地顧問委員会やハイチ友の会など通じて状況把握に努めたが、レオガンが被害は少なかった事や現地 NGO の状況を鑑みて、支援を見送った。 　2017 年度は、災害看護支援機構（DNSO）の方と現地を訪問、モニタリングすることで事業の終了を予定していたが、日程調整ができずに次年度持ち越しとなった。 ※顧問会メンバー （＊2015 年頃、メンバーが入れ替わったとの情報はあるが、詳細は把握できていない。） ●Mr. Sylvio Bourget　カナダ人で、ケベック州在住。農業・植林の専門家で、GEDDH 設立時（2005 年頃）から毎年 1 回ハイチに通い、農業を教えている。シスターとは修道会のつながりによる知り合い。 ●Mr. Jean-Claude Leferve　GEDDH 事務局長。2 月のシンポジウムに来日された方。 ●Mr. Joseph Ustache Estalien　GEDDH の中核メンバーで、農業の実務に最も詳しい方。JICA の研修で神戸にも来たことがある。 ●Mr. Pere Gabriel Blot　カトリックの司祭。ドイツの Calitas によって建設された技術専門学校の事務局長。この学校には 6 部門の技術分野（建築、木工、配管、大工、ブリキ工、太陽光発電）があるが農業部門はない。大学ではないが、上級の学校とのこと。教師の給与は Calitas が1年間支援するが、その後は自分たちで賄わなくてはならないため、学校で生産したものを売って備えているという。 ●Mr. Frere Olizar　聖テレシア会の修道士で、同修道会の総会計。学校の校長もしており学校の管理に慣れている。 ●CODE　芹田代表 ※Sylvio 氏と CODE は遠隔のため、実務よりもアドバイザー的な関わりになる。 《参考》CODE 訪問歴 クワゥテモックさん 第 1 次：2010 年 1 月 25 日～3 月 10 日 第 2 次：2010 年 3 月 30 日～5 月 15 日 第 3 次：2010 年 6 月 17 日～9 月 5 日

	第 4 次: 2010 年 10 月 1 日～12 月 20 日 第 5 次: 2011 年 1 月 9 日～3 月 31 日 2010 年 8-9 月:野崎理事 第 6 次:2012 年 8 月:芹田代表、岡本 第 7 次:2013 年 5 月:芹田代表、吉椿 ※2013 年 6 月～7 月には、災害看護支援機構のアテンドとして吉椿事務局長が同行した。 その他 2013/2/4 シスター須藤が事務所を訪問 2014/9/23 シスター須藤の講演会を主催(あすってぷ神戸 参加人数 80 名) 2014/10/28 シスター須藤の講演会をサポート(小林聖心女子学院)(吉椿) 2015/3 毎日新聞大阪社会事業団から「世界子ども救援金」としてハイチ支援に寄付(40 万円)をいただいた。 2015/4/27 シスター須藤と大瀧さん(大阪大学大学院生)と打合せ(吉椿) 2016/1/18 災害看護支援機構とハイチ訪問の打合せ(吉椿) 2016/4/21 災害看護支援機構とハイチ訪問の打合せ(吉椿) 2017/10 月 ハイリケーン・マシュー被害に伴い、状況確認(吉椿) 2017/3/24 ハイチ友の会小澤先生への電話ヒアリング(吉椿) 2017/9/27 災害看護支援機構とハイチ訪問の打合せ(吉椿) 2018/3/7 ヒューマンノート寺尾さん、ハイチのヒアリング(吉椿) ＊4－(4)と重掲

事業名	1-(6)中国・青海省地震救援プロジェクト
実施日時	2010 年 4 月 14 日～継続中
実施場所	中国青海省玉樹県の被災地
受益対象者の範囲及び予定人数	青海省 540 万人、玉樹チベット族自治州人口 28 万人、玉樹県 10 万人
実施内容	地震発生後、四川省地震(2008 年)以来協力いただいている成都市のゲストハウス「Sim's Cozy Garden Hostel」や四川省で共に活動した NGO、ボランティアを通して被災地の状況把握に努めつつ、救援活動を立ち上げた。また調査のため、四川省に滞在中のスタッフ吉椿を 2 度青海省に派遣し、同省玉樹で最大の NGO のひとつ「江源発展促進会(Snowland Service Group、SSG)」や中国の NGO「生命環懐協会」とのネットワークを築いた。 並行して、青海省のラブ地域の僧院と連携して環境問題に取り組んでいるインドネシア人アーティスト、イアニさん(アラフマイアニ・フェイサル)とも情報交換をしながら連携も模索してきた。そこで 2011 年度よりチベット人には欠かせない牛である「ヤク」を住民で共有して貸し出す「ヤク銀行プロジェクト」の実施に向けて調整を重ねてきた。購入した母ヤクを被災者に貸し出し、乳から作られるチーズやヨーグルト、繁殖後のヤクの肉や毛皮を売ることで生計を建ててもらい、繁殖されたヤクまたは現金で返還してもらう仕組みである。 2012 年 7 月の第 3 次派遣で僧侶や住民、遊牧民、獣医の代表で「ヤク銀行」プロジェク

	トの委員会が立ちあげられ、2013 年 4 月にイアニさんを現地に派遣し、最終調整を行った。8 月には委員会の協議を経て、最も貧しい遊牧民に優先的にヤクを提供した。提供されたヤクは現在、遊牧民によって飼育・繁殖されている。 2014 年 8 月に吉椿が現地を再訪し、ヤク銀行プロジェクトやヤクの飼育などの状況を視察した。カトゥ村の遊牧民家族に提供された 37 頭のヤクは、現在、53 頭に増えた。 2015 年 8 月には、カウンターパートのイアニさんが現地を訪問し、母ヤクが 8 頭 を出産したが、5 頭が病気などで死亡したことで現在のヤクの総数は 56 頭であることを確認した。 2016 年 8 月に現地を訪問したイアニさんの報告では、地元の県政府が、CODE の提案したヤク銀行プロジェクトに注目し、新たな約 200 頭と CODE の 56 頭を集約し、遊牧民へのヤクの再分配を行うことになった。CODE の提供した 56 頭のヤクを飼育している遊牧民ロブサンは、1/3 のヤク（19 頭）を得ている。これは、NGO による提案が現地政府によって引き継がれたといえる。 これは、ヤク銀行だけでなく、イアニさんと僧侶が行って来た植林、ゴミの分別、有機農業、水管理なども同様に集約して政府のサポートを受けている。これらの政府の意図やねらいについては、イアニさんによると、政府がチベット高原の危機的な環境問題（草原の後退など）に対してイメージアップをはかりたいのではないかということであった。イアニさんとヤク銀行委員会の協議では、政府のサポートを受ける事やヤクの再分配について同意しているという。 2017 年度は、イアニさんが現地を訪問しなかったことにより、現地の状況が確認できなかった。よって次年度に持越し、イアニさんの訪問を促し、現地の状況を確認して本事業を終了とする。

●終了プロジェクト

事業名	1-(7)インドネシア・ジャワ島中部地震救援プロジェクト（通称：呼び水プロジェクト）
実施日時	2006 年 5 月 27 日開始　　＊終了
実施場所	インドネシア・ジョグジャカルタ特別州グヌンキドル県 パンガン郡ギリセカール村落内のナワンガン集落
受益対象者の範囲及び予定人数	直接的な対象者はナワンガン集落の住民約 130 名だが、モデルケースの確立により、自然条件・経済的条件の類似した周辺住民（ギリセカール村 7000 名、パンガン郡 2 万 7000 名）が裨益すると考えられる。
実施内容	2008 年 1 月、「呼び水プロジェクト」として、ナワンガン集落において水道管敷設を支援（同 4 月施工完了）。これを機に集落の人々は水と農業の問題に向き合い、集落が抱える貧困・若者の都市への流出についても住民自ら取り組みはじめた。例えば、浮いた水代の差益をプールしてナマズの養殖などの事業向け小規模融資を実施するなどである。 2010 年 7 月、CODE はこの集落の持続可能な暮らし確保に向けて村井理事と岡本が現地を訪れ、その後も集落住民、カウンターパートとなるデュタ・ワチャナ・キリスト教大学等との話し合いを重ねてきたものの、2011 年度後半に、カウンターパートとの連携を担っていた現地キーパーソンがプロジェクトに密に関われなくなったことから、住民は「今の生計手段の延長でできることから始めたい」との結論に至った。一方、CODE 正会員である神戸学

	院大学浅野壽夫教授の授業「海外研修」で同集落へのフィールド研修に 2010、2011、2012 年はスタッフの岡本が、2013 年は村井理事が同行させていただき、情報収集を行った。 2014 年以降は、神戸学院大学の浅野壽夫教授（CODE 正会員）たちが毎年、現地を訪問しており、同教授らが立ち上げた「ヤギ基金プロジェクト」を共有させていただいている。 2017 年度は、数年ぶりに CODE のスタッフが浅野教授と共に現地を訪問する事ができた。現地では、CODE が建設した水道タンクは今も使用されており、施設した水道管によって水道料金が安価になり、その浮いた分を 10 年間で積み立ててきた。その資金を使って水道組合がマイクロファイナンス（ヤギ銀行）を行っている。今後、各家庭に水道管とメーターを設置する予定である。以上のように、現地の水道組合が計画的に資金を運用し、住民の生活向上をはかっている。以上、現地が自立の道を確実に歩んでいることを確認したことで本事業を終了とする。 ＊2017 年度神戸学院大学インドネシア研修 期　間：2017 年 9 月 2 日～9 日（8 月 31 日、9 月 1 日事前説明会に吉椿が参加） 引　率：浅野壽夫教授（神戸学院大学現代社会学部） 参加者：神戸学院大学現代社会学部 3 年生の 9 名 通　訳・現地コーディネート：笠原里愛さん 同　行：吉椿雅道（CODE）

【2. 人材育成事業】

事業名	2-(1)世代交代に伴う事務局体制の充実化
実施日時	2011 年 4 月～継続中
実施場所	CODE 事務局
受益対象者の範囲及び予定人数	数名
実施内容	2013 年度より吉椿雅道を事務局長として若者の CODE へのかかわり、および事務局体制の充実化を図ってきた。スタッフの上野智彦（29 歳）は、これまでにフィリピン、ネパール、四川の被災地の現場経験を経て、事務局運営やプロジェクト運営についての知識を深めた。対外的にも関西 NGO 協議会等の勉強会などにも参加してきた。現在は、主に未来基金運営や CODE レター作成などを中心に活動している。 2017 年度は、未来基金などに関わる大学生（神戸大学、兵庫県立大学大学院）などのボランティアに協力してもらい、食と国際協力やイベントの運営を行って来た。後期からは、未来基金のインターンとして高橋大希さん（当時愛媛大学 2 年生）を半年間迎え入れ、広報や未来基金の若者のネットワーク作りなどに尽力していただいた。

事業名	2-(2) NGOことはじめ
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所

受益対象者の範囲及び予定人数	当 NGO スタッフはじめ、学生や若者数十名。
実施内容	2017 年度は、村井理事を講師に CODE 寺子屋を 1 回開催し、スタッフやボランティアなどの若い人たちが CODE の理念や活動を学ぶ場を提供した。 ＊CODE 寺子屋「NGO ってなんだろう？」 講師：村井理事 2017 年 10 月 13 日　参加者：11 人

事業名	2-(3) ボランティアの日
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	学生や若者数十名
実施内容	月に一度開催している「食と国際協力」や日中 NGO・ボランティア研修交流事業、未来基金のフィールドワークなどを通じて若者が集う場を提供してきた。特にインターン高橋さんの努力で未来基金を通じて CODE に関わる若い人も増えてきている。

事業名	2-(4) 月イチシリーズ「食と国際協力」
実施日時	毎月第 3 木曜日
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	一般
実施内容	2014 年 3 月より開催している「れーずんの会」から派生した企画として「食と国際協力」を月 1 回、第 3 木曜日に開催している。食を通して、その国について学び、語る場を作る。災害が起きる前からその国の事を知り、身近に感じてもらう。これにより普段の災害救援活動では出会えない方々にもご参加いただき、CODE を知ってもらうと同時に、その中から CODE に積極的に関わる若者を発掘していく。2017 年度は全 9 回を開催し、のべ 111 名にご参加いただいた。これまでの 4 年間で計 40 回を開催し、のべ 506 名にご参加いただいた。 ＊これまで開催された内容は以下の通り。 第 1 回　れーずんの会　（CODE）　（2014 年 3 月 28 日）　参加人数：11 名 2014 年度 第 2 回　れーずんの会　（村井理事）（2014 年 4 月 25 日）　参加人数：15 名 第 3 回　フィリピンからまなび（PEPUP 中山さん＋吉椿） （2014 年 5 月 15 日）　参加人数：13 名 第 4 回　インドネシアとつながる（JICA 兵庫デスク　中村さん＋村井理事） （2014 年 6 月 19 日）　参加人数：15 名 第 5 回　食から見る日本とアメリカ（ワールドユースジャパン学生＋多田、上野） （2014 年 7 月 15 日）　参加人数：21 名

	第 6 回　青海省チベット高原から （吉椿）（2014 年 8 月 21 日）　　参加人数:11 名 第 7 回　ハイチからのたより（シスター須藤＋吉椿）（2014 年 9 月 24 日） 参加人数:11 名 第 8 回　れーずんの会 （村井理事、多田）（2014 年 10 月 16 日）　　参加人数:11 名 第 9 回　イランってどんな国？（奥、ナヒド夫妻＋CODE）（2014 年 11 月 20 日） 参加人数:11 名 第 10 回　台湾とのきずな（李勇昕さん）（2014 年 12 月 18 日）　　参加人数:9 名 第 11 回　バングラデシュ～災害のスーパーマーケットと呼ばれる国 （人と防災未来センター　斉藤さん）（2015 年 2 月 19 日）　参加人数:13 名 第 12 回　中国四川の風土と食 （吉椿）（2015 年 3 月 19 日）　　参加人数:7 名 2015 年度 第 13 回　れーずんの会（村井理事）（2015 年 4 月 16 日）　　参加人数:10 名 第 14 回　カンボジアの子どもたち～アンコールの風～　　参加人数:15 名 （SVA カンボジア事務所　ソティア・ロアットさん）（2015 年 6 月 2 日） 第 15 回　スリランカという国～インド洋の島国の生活～　　参加人数:　11 名 （人と防災未来センター　斉藤容子さん）（2015 年 8 月 20 日） 第 16 回　ヒマラヤの民シェルパ～ネパール標高 3000m の暮らし　　参加人数:18 名 （Royal Orchid Treks　ラクパ・シェルパさん）（2015 年 9 月 17 日） 第 17 回　イランってどんな国～イランの人たちと出会って～ （在神戸イラン人夫妻　奥圭三さん、ナヒド・ミールザッハリリさん） （2015 年 10 月 15 日）　　参加人数:11 名 第 18 回　れーずんの会（村井理事）（2015 年 11 月 19 日）　　参加人数:8 名 第 19 回　フィリピンの食と暮らし～セブ島の「食」から見えること～　参加人数:9 名 （神戸大学 PEPUP　坂元さん、CODE 上野）（2015 年 12 月 17 日） 第 20 回　エルサルバドルってどこ?どんな国？　（2016 年 2 月 18 日） （人と防災未来センター　岸本くるみさん）　　参加人数:12 名 第 21 回　台湾の寄付文化（京都大学防災研究所　李勇昕さん） （2016 年 3 月 17 日）　参加人数:13 名 ＊2016 年度 第 22 回　9.11 から 14 年（CODE 理事　村井雅清） （2016 月 4 月 14 日）　参加人数:17 名 第 23 回　ネパールのハニーハンター （ハニールネッサンス　米川安寿さん） （2016 年 5 月 19 日）　参加人数:15 名 第 24 回　バングラデシュ～災害のスーパーマーケットと呼ばれる国 （暮らし研究所ままどころ　斉藤容子さん） （2016 年 6 月 16 日）　参加人数:10 名 第 25 回　多様なる雲南～日本のルーツを求めて （CODE 事務局長　吉椿雅道） （2016 年 7 月 21 日）　参加人数:10 名 第 26 回　イランってどんな国～イランの人たちと出会って～ （在神戸イラン人夫妻　奥圭三さん、ナヒド・ミールザッハリリさん）

	（2016 年 9 月 15 日） 参加人数:14 名 第 27 回 中国・四川での暮らし～13 年間の生活から見えてきたもの～ （植田麻紀さん、Sim さん夫妻）（2016 年 10 月 21 日） 参加人数:17 名 第 28 回 ネパールの大工、語る。～ネパールの若者から見たネパール～ （ニマ・シェルパさん） （2016 年 11 月 10 日） 参加人数:25 名 第 29 回 若者が見たフィリピン ～未来基金のフィールドワークの活動を語る～ （神戸大学 宮津隆太さん） （2016 年 12 月 15 日） 参加人数:10 名 第 30 回 台湾の寄付文化 （京都大学防災研究所 李勇昕さん） （2017 年 2 月 16 日） 参加人数:9 名 第 31 回 ネパールの村を訪れて（兵庫県立大学 立浪雅美さん） （2017 年 3 月 16 日） 参加人数:13 名 2017 年度 第 32 回 9.11 から 15 年～れーずんを食べながらアフガニスタンの「いま」を考える～ （CODE 理事 村井雅清）（2017 年 4 月 20 日） 参加人数:9 名 第 33 回 ネパールのハニーハンター ～大地に樹を植え、心に花を咲かせる～ （ハニールネッサンス代表 米川安寿さん）（2017 年 5 月 25 日） 参加人数:8 名 第 34 回 バングラデシュでチャイと出会って～NGO35 年に関わって～ （CODE 理事 榛木恵子）（2017 年 7 月 13 日） 参加人数:9 名 第 35 回 イランってどんな国 ～実はよく知らない？イランの魅力～ （くらし研究所ままどころ代表 斉藤容子さん）（2017 年 9 月 14 日） 参加人数:10 名 第 36 回 フィリピンに出会って ～地元の人の暮らしに触れる～ （兵庫県立大学大学院 立部知保里さん）（2017 年 10 月 19 日） 参加人数:10 名 第 37 回 ネパールの若者と語り合う～シェルパの若者と日本の若者～ （グデル村 ニマ・シェルパさん）（2017 年 11 月 16 日） 参加人数:21 名 第 38 回 僕なりの援助のハナシ～フィリピンを再び訪れて～ （神戸大学 2 年生 羽田和真さん）（2017 年 12 月 21 日） 参加人数:13 名 第 39 回 多様なる雲南～日本のルーツを求めて～ （CODE 事務局 吉椿雅道） （2018 年 2 月 15 日） 参加人数:16 名 第 40 回 一人前ってどれくらい? ～エルサルバドルと日本のごはんから教わったこと （人と防災未来センター震災資料専門員 岸本くるみさん） （2018 年 3 月 8 日） 参加人数:15 名

【3. 災害関連情報の収集及び発信事業】

事業名	3-(1)災害情報サイト(CODE World Voice)の運営
実施日時	随時(2002 年からの継続事業)
実施場所	SOHO 形式や当センターなど
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数の災害情報を得ている人たちすべて
実施内容	これまでに「World Voice」として、災害後の情報を UNOCHA の「Relief web」を翻訳する

	事で積極的に発信してきた。2013 年のフィリピン台風の際は、全国から翻訳ボランティア・情報収集ボランティアの申し出があり、広く協力いただいた。現在もHPの英語訳などにボランティアの方 1 名に協力をいただいている。

【4. ネットワーク構築事業】

事業名	4-(1)《関係機関からの受託事業》 神戸学院大学
実施日時	9 月から 1 月まで、毎週火曜日第3限
実施場所	神戸学院大学ポートアイランドキャンパス
受益対象者の範囲及び予定人数	現代社会学部の学生約 40 名
実施内容	① 「現代社会学部」の後期授業企画および講師派遣 CODE とのコラボレーション事業という位置付けで、9 年目となる 2016 年度も継続して神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱを村井理事が、以下の講師陣と共に下記の通り実施した。受講人数は約 40 名。 《日程と内容》 9/19(火) 第 1 回 ガイダンス(村井理事) 9/26(火) 第 2 回 阪神淡路大震災 20 年とボランティア(村井理事) 10/3(火) 第 3 回 阪神淡路大震災以降の国内災害と東日本大震災における ボランティア活動を振り返る(村井理事) 10/10(火) 第 4 回 ボランティアでもできる心のケア(村井理事) 10/17(火) 第 5 回 CODE 海外災害援助市民センターが担う社会貢献について(吉椿) 10/24(火) 第 6 回 フィリピン台風の復興から学ぶ NGO の取り組み(吉椿、上野) 10/31(火) 第7回 四川大地震から学ぶ民際交流(吉椿) 11/ 7(火) 第 8 回 ハイチ地震から学ぶ(吉椿) 11/14(火) 第 9 回 アフガニスタンと開発援助(村井理事) 11/21(火) 第 10 回 ネパール地震後の住まいの再建を通して、現地の暮らしと 自然との共生について学ぶ (村井理事、上野) 11/28(火) 第 11 回 災害とジェンダー(斉藤容子さん) 12/5(火) 第 12 回 災害時における地域力と備えの大切さについて(織田峰彦さん) 12/12(火) 第 13 回 農業といのちと暮らしのつながりから持続可能な社会 とは何かを学ぶ(本野一郎さん) 12/19(火) 第 14 回 地方分権と被災者主体、市民主体とは?(松本誠理事) 1/16(木) 第 15 回 まとめ (村井理事) その他の講義にも講師として派遣した。 4/29(土) 神戸学院大学「社会貢献学入門」で講義(吉椿) 5/20(土) 神戸学院大学「社会貢献学入門」で講義(吉椿) 6/26(月) 神戸学院大学「社会防災特別講義Ⅳ」で講義(吉椿)

	② インターンシップ受け入れ 昨年に続き、9 月 11 日から 15 日まで 5 日間、学生インターン 3 名を受け入れた。 9/15（金） インターン生への NGO 論講義（榛木理事）

事業名	4-(2)《関係機関からの受託事業》 神戸女子大学
実施日時	5 月から 7 月まで、毎週金曜日第 2 限
実施場所	神戸女子大学
受益対象者の範囲及び予定人数	神戸国際教養学科の学生約 20 名
実施内容	2015 年度より神戸女子大学神戸国際教養学科で村井理事が講師として授業を行っている。2017 年度の実施内容は以下の通り。 5/19（金） ボランティアの歴史 ～「セツルメント運動」から災害救援へ～ 5/26（金） CODE 海外災害援助市民センターの活動について ～困った時はお互い様・一人ひとりに寄り添う～ 6/2（金） 災害と貧困 ～貧困脱出と災害復興との関係～ 6/9（金） 異文化理解と支援 ～宗教や伝統文化、生活習慣の違いを理解する～ 6/16（金） 新たなチャンレンジ ～ネパール地震支援プロジェクトから学ぶ～ 6/23（金） 女性の生活向上支援と自立 ～教育のもたらす意義～ 6/30（金） 長期にわたる戦禍・紛争後のアフガニスタン ～人為災害と自然災害と戦う人々～ 7/7（金） 紛争後の支援から 12 年、アフガニスタンの今 ～平和構築への課題～ 7/14（金） 保護とエンパワーメント

事業名	4-(3)《関係機関からの受託事業》 関西 NGO 協議会
実施日時	随時
実施場所	未定
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	① 講師派遣 ・6/28（水） 神戸女学院大学 文学部総合文化学科 「ボランティア論Ⅰ」で講義（吉椿） ・7/23（日） ワンワールド・フェスティバル for Youth 高校生実行委員会 で講演（吉椿） ・2018/1/10（水） 龍谷大学国際特別講義「国際 NGO 論」で講義（吉椿） ② NGO-JICA 協議会、および提言専門委員会への参加 村井理事が提言専門委員を担っているが、2016 年度以降、委員会は休会となっている。

事業名	4-(4) 国内のネットワーク構築事業
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	① 関西 NGO 協議会の活動への参加 ＊総会・理事会への出席 5/27 第 16 回定期総会、第 1 回理事会に出席（吉椿） 6/28 第 2 回理事会に出席（吉椿） 8/2 第 3 回理事会に出席（吉椿） 9/28 第 4 回理事会に出席（吉椿） 11/15 第 5 回理事会に出席（吉椿） 1/17 第 6 回理事会は欠席 2/22 第 7 回理事会に出席（吉椿） ＊その他 4/25 セーフトラベルセミナーに参加（吉椿） 5/27 第 15 回定期総会に出席（吉椿、上野） 9/2 NGO 安全管理研修に参加（上野） 9/21 第 5 回かんさいCSネットワークフォーラムに参加（上野） 10/6 関西 SDGs プラットフォーム設立準備会合に出席（吉椿） 10/7 関西NGO助成プログラム説明会（上野） 11/18 第 17 回スタディツアー合同説明会に参加（高橋） 12/18 関西 SDGs プラットフォーム設立総会、シンポジウムに出席（吉椿） 12/23 ワンワールドフェスタ for YOUTH（吉椿、上野、高橋） 2018/2/4 ワンワールド・フェスティバル ＊6-(2)と重掲 「高校生・大学生と NGO がつながる方法とは？」で報告（上野、高橋） 2/16 関西NGO協議会谷川さんへインタビュー（高橋） ＊7－(5)と重掲 3/8 かんさい CS ネットワークフォーラムに意見交換会に参加（上野） 3/30 関西 NGO 協議会 30 周年記念レセプションに参加（吉椿、上野） ② コープこうべとの連携 2017 年度は、コープこうべを退任された山添令子さんに替わり、岡田卓巳さんが新たな理事として CODE 理事会に出席していただいた。また第3地区など、これまでのつながりで講演やレーズン販売なども行ってきた。 5/30 第 3 地区、奥野さんと講演打合せ（吉椿）

6/7　第 3 地区福祉サークルリーダー連絡会で講演（吉椿）
6/14　第 97 期通常総代会に出席（村井理事）
6/29　岡田新理事と面会（山添元 CODE 理事、吉椿）
7/29　平和の集いでレーズン販売（上野）
11/25　第 3 地区活動本部ボランティア交流会でレーズン販売
2018/2/17 岡田理事と事業計画の打合せ（吉椿）

③ 近畿ろうきん

2018 年度より近畿ろうきんの社会貢献預金「笑顔プラス」（預金の金利の一部を社会貢献に使うしくみ）の寄付先団体として選出された。

12/28　近畿ろうきん、中須さん「笑顔プラス」の打合せ（吉椿）
2018/2/26　近畿ろうきん兵庫事務所と打合せ（吉椿）
3/23　近畿ろうきん「笑顔プラス」第 1 回寄付先合同会議で報告（上野）

④ 北陸学院大学（JICA 草の根技術協力事業）

（＊フィリピン台風災害救援プロジェクトから本項目に移行）

●これまでの経緯

2013 年 11 月、観測史上最大級と言われる台風 Haiyan（現地名 Yolanda）は、フィリピン中部のレイテ、サマール、セブ、パナイなどの島々に甚大な被害を引き起こした。CODE は、直後より救援活動を開始し、安全性やアクセス、規模などを考慮し、スタッフをセブ島、パナイ島へ派遣し、調査と少量の物資配布などを行った。その後、2014 年 1 月末に再度訪問し、現地 NGO ネットワーク「ABAG Central Visayas」へのヒアリングを行い、具体的なプロジェクトのサイトやカウンターパートの可能性を探った。加盟団体である NGO、SPFTC（Southern Partner Fair Trade Center）、FIDEC（Fisherfolk Development Center）や漁師でつくる団体 PAMANA を通じてセブ島北部やバンタヤン島でボートや漁網などを提供する漁業支援を決定した。

また、漁村における女性の役割の重要性やこの NGO ネットワークの加盟団体が被災地でグループ（Association）を組織し、自立支援を行っている事などから女性の自立も視野に入れた漁村コミュニティーの支援も目指し、現地 NGO とより強固な信頼関係を築いていてきた。

2014 年 2 月に 150 万円の寄付を頂いた静岡の連携団体である「ふじのくに国際災害ボランティア支援ネットワーク」の事務員と吉椿が 3 月にフィリピンを訪問し、現地 NGO と協議し、具体的な調整を行った。CODE に集まった寄付金約 300 万円を使って、セブ島北部、バンタヤン島の 6 つのバランガイ（最小行政単位）にボートを提供し、3 世帯の漁民で 1 つのボートを共有することになった。

提供されるボートの種類、数、共有方法などは、現地 NGO ネットワーク「ABAG Central Visayas」と各バランガイの住民組織（Association）が協議しながら決めている。

2014 年秋頃より現地の NGO ネットワークを通じてセブ北部の小島 Lipata 島にて船大

	工によるボート製作が開始され、2015 年 2 月にはボート 2 艘がバンタヤン島のバランガイ Pooc の被災漁民に提供され始め、これまでに Pooc、Ocoy、Aningan、Victria、Polambato の 5 つの地域に7艘のボートを提供した。残りの 5 艘は、材料不足の影響で遅れていたが、2016 年 12 月にすべてのボートの提供が完了した。その後の住民教育に関しては、北陸学院との JICA 草の根技術協力事業の中で実施していくことになった。 2015 年 12 月より、JICA 草の根技術協力事業（新・草の根協力支援型）のJICA 北陸の案件として、北陸学院大学（田中純一准教授）とのコラボで CODE のフィリピン台風の復興支援フィールドであるセブ島、バンタヤン島で実施している。具体的には、被災地の農漁村の女性を対象に石川県内のフェアトレードや海産物加工の技術など活用して雇用を創出し、女性の地位向上をめざす。また、地域の防災リーダーの育成をめざし、コミュニティ防災に貢献する。 2017 年度は、田中准教授と共に現地を 2 回訪問し、現地の 2 ヵ所（Pooc、Okoy）のアソシエーションの女性メンバーたちと共にリソースマッピングのワークショップを実施し、地元で使える資源を住民自身が再発見する事ができた。その中から現地の植物フレーバーなどを用いた石鹸作りの試作を現在、行っている。 2017 年度の主な動き: 4/21 北陸学院大学、田中准教授と JICA 草の根事業打合せ（吉椿） 6/2 アイセック神戸大学委員会、羽田さん ヒアリング（吉椿） 8/21～27 JICA 草の根技術協力事業でフィリピンに専門家派遣（田中准教授、吉椿） 8/21～9/8 神戸大学羽田さんをフィリピンに派遣 9/12 神戸大学羽田さん、フィリピン報告（吉椿、上野） 10/13 神戸大学羽田さんと JICA 草の根技術協力事業の打合せ（吉椿） 10/19 第 36 回食と国際協力「フィリピン」（兵庫県立大学大学院 立部知保里さん） 11/6 神戸大学羽田さんと JICA 草の根技術協力事業の打合せ（吉椿） 11/27～12/2 JICA 草の根技術協力事業でフィリピンに専門家派遣 （田中准教授、上野） 12/19 甲南女子大学 瀬木先生とフィリピンの打ち合わせ（吉椿） 12/21 第 38 回食と国際協力「フィリピン」（神戸大学 羽田和真さん） 2018 年 1/24 甲南女子大学フィリピン勉強会 ＊6-(2)と重掲 （瀬木先生、吉椿、上野、高橋、立部さん、羽田さん） 2/19～5/3 兵庫県立大学大学院、立部さんフィリピンで調査研究 ⑤ チームひょうご 2015 年のネパール地震の 1 年後に、ネパール地震支援を行うNGO、研究機関の情報交換の場として兵庫県立大学を中心に立ち上げられ、CODE も参画している。 2106/5/10 チームひょうごネパール地震報告会で報告（吉椿） 2016/10/11 チームひょうごネパール地震報告会で報告

（ニマ・シェルパさん、ラクパ・シェルパさん、吉椿）

2017/2/20　チームひょうごネパール地震報告会で報告（吉椿）

2017/12/20 チームひょうごネパール地震報告会で報告（吉椿、高橋）

⑥ 若者の団体、教育機関とのネットワーク

2017 年度は、未来基金事業を中心に若者のネットワークとのつながりを作ってきた。「アイセック神戸大学委員会」や「ワカモノヂカラプロジェクト」、「神戸大学 PEPUP」、「まなびと」や「神戸大学救援隊」、「関西学院大学ニューマンサービスセンター」、「大学コンソーシアムひょうご神戸」などとの関係を深めてきた。「アイセック神戸大学委員会」とは、海外インターン送り出し事業局の面談委員を吉椿が担っていることや未来基金四川フィールド研修ではアイセックのメンバーが中国四川省で企画を実施した。

今年度は、神戸龍谷高校、神港橘高校、関西学院大学千里国際高等部、舞子高校神戸工科高校などの高校での講演もあり、神戸大学、神戸学院大学、東京大学大学院、関西大学、兵庫県立大学大学院などの学生のヒアリングもあった。

4/5　アイセック神戸大学委員会　羽田さんヒアリング（吉椿）

10/20　NPO しゃらくのソーシャルビジネス実践セミナー（神戸女子大学）で講演（吉椿）　＊6－(2)と重掲

12/1　アイセック神戸大学委員会　井村さんヒアリング（吉椿）

12/22　被災地 NGO 協働センター頼政さんへインタビュー（高橋）　＊7－(5)と重掲

1/16　まなびと石野さんへインタビュー（高橋）　＊7－(5)と重掲

2/3　大学コンソーシアムひょうご神戸「多文化共生から始まる防災・減災と復興」に登壇（羽田和真さん、上野）＊6-(2)と重掲

2/8　神戸ソーシャルキャンパス大福さんへインタビュー（高橋）　＊7－(5)と重掲

2/16　関西NGO協議会谷川さんへインタビュー（高橋）　＊7－(5)と重掲

その他の団体

4/25　21 世紀研究機構のシンポジウムに参加（吉椿）

4/27　JICA 関西国際協力セミナーに参加（吉椿）

7/26　JICA 関西国際防災研修センター小野さん、澤田さん来所（村井理事、吉椿、上野）

9/1　Janiss「NGO の安全管理」のヒアリング（村井理事、吉椿）

11/7　ひょうご安全の日のつどいに参加（上野）

11/25　JICA 関西映画鑑賞会×ネパールバンド公演会（吉椿、高橋）

11/30　平成 30 年青少年会館団体使用登録更新説明会に出席（高橋）

2018/1/18　ネパール地震活動報告会 IN モンベルの打合せ（吉椿、高橋）

1/23　国際防災・人道支援フォーラム「国難となる広域巨大災害に備える」に参加（吉椿）

	1/24　IRP 国際復興フォーラム「都市のレジリエンスを強化させるための Build Back Better」に参加（吉椿） 2/3　ネパール地震活動報告会 IN モンベル（吉椿、高橋、立浪、今中） 3/2　関西国際大学林先生とフィールド学習の打合せ（吉椿） 3/7　ヒューマンノート寺尾さん、ハイチのヒアリング（吉椿）　＊１－(5)と重掲 3/8　かんさい CS ネットワークフォーラムに意見交換会に参加（上野） 3/16　第 2 回兵庫国際協力同志の会（Hyomic）勉強会に参加（上野）

事業名	4-(5) 海外のネットワーク構築事業
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	① 2013 年 11 月に発生したフィリピン台風災害を機にセブ島で活動する NGO ネットワーク「ABAG! Central Visayas」との関係を築いてきた。引き続き本ネットワークとの連携を深め、防災や今後の災害救援に活かしていく。 ② 2008 年の四川大地震以降、つながっている四川の NGO「NGO 備災センター（上厚公益服務センター）」、「四川尚明公益発展研究センター」、「壱基金」などとの連携を、2015 年、2016 年、2017 年に実施した日中 NGO・ボランティア研修交流事業をきっかけに深めてきた、2017 年 8 月に四川省九寨溝で発生した地震の際も NGO 備災センターから情報提供を行ってもらった。 ③ 2015 年 4 月に発生したネパール地震の救援活動を通じて Gudel Sherpa Community や同組織のシニアアドバイザーであるラクパ・シェルパさんと出会った。2016 年度は、耐震住宅再建プロジェクトを行ったグデル村のシャーレ地区の「シェルパ村落開発改善委員会」や「夢広の会」との関係を構築してきた。

【5.「市民による災害救援」に関する調査・研究事業】

事業名	5-(1) CODE 寺子屋学習会
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	役員、事務局員、CODE 会員、関係者、一般
実施内容	＊CODE 寺子屋 3 回シリーズ 今年度は、CODE 寺子屋を芹田代表理事、室崎副代表理事、松本理事の 3 名を講師に「NGOの根幹を若者に」をテーマに 3 回実施した。詳細は以下の通り。 第 1 回「NGOは誰代表するのか？」（講師：芹田健太郎代表理事）　参加者：10 名

	第 2 回「市民社会はどう変化してきたか？」(講師:松本誠理事)　参加者:10 名 第 3 回「NGOが災害支援をする意義は？」(講師:室崎副代表理事)　参加者:23 名 ＊2014 年度寺子屋 4 回シリーズの冊子化 2014 年度の室崎副代表理事の寺子屋 4 回シリーズ「①阪神・淡路大震災 ②国内の復興事例 ③海外の復興事例 ④東日本大震災」の講義録を小冊子にする事ができた。2017 年度末で 52 冊を実費 500 円で頒布した。

【6.「市民による災害救援」に関する啓発及び広報事業】

事業名	6-(1) 賛助会員の拡大
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所、その他
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	今年度(2018 年 3 月末時点)の会員の状況: 正会員　:24(団体 3、個人 21) 賛助会員:101(団体 3、個人 98)　計:125 名・団体 (＊2014 年度は、92 名・団体、2015 年度は 120 名・団体、2016 年度は、147 名・団体) 2015 年度から 2016 年度は、ネパール地震や NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」(2016/3/14 放送)の影響で新規の会員、寄付者が一時的に大幅に増えた。その後も、会員だけではなく、新規寄付者にも年 3 回の CODE レターの送付を行ってきた。 だが、新規の会員や継続の会員フォローアップが十分でなかったために賛助会員が減少している。現在、原因と対応を精査中である。 ＊gooddo(ワンクリック募金) 2014 年度より gooddo(寄付サイト)でのワンクリック募金を開始し、約 22,000 円/年の寄付があったが、2018 年 1 月末をもってこのワンクリック募金が終了した。 (＊2015 年度:57,467 円、2016 年度:22,207 円) ＊2017 年度の月別寄付額 4 月 2286 円　9 月 1314 円 5 月 1780 円　10 月 2540 円 6 月 1850 円　11 月 2216 円 7 月 1615 円　12 月 4356 円 8 月 1006 円　1 月 4533 円 合計:23496 円 ＊ソーシャルアクションリング(バナー広告) 2015 年度よりソーシャルアクションリングの HP で CODE を紹介してもらい、バナー広告を HP に貼る事で、今年度も年間 15000 円の広告費を得た。

	＊Gochiso（ポイント寄付） Gochiso というサイトで、登録しているレストランの食事代のポイント還元を寄付に充てる仕組みを 2017 年度から取り入れてきたが、反応は少ない。

事業名	6-(2) 救援プロジェクト報告会及び講師派遣
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	① 当団体主催の報告会、講義は以下の通り。 ＊フィリピン勉強会　＊4-(4)と重掲 日　時：2018 年 1 月 24 日（水） 場　所：甲南大学 報告者：吉椿雅道（CODE 事務局長） 瀬木志央（甲南女子大学文学部講師） 参加者：7 名 （立部知保里さん、羽田和真さん、斉藤容子さん、上野、高橋、甲南女子大生 2 名） ＊ネパール地震活動報告会 IN モンベル（吉椿、高橋、立浪、今中）　＊1-(4)と重掲 日　時：2018 年 2 月 3 日（日） 場　所：モンベル神戸三宮店 2F 報告者：吉椿雅道（CODE 事務局長） 立浪雅美さん、今中麻里愛さん、高橋大希さん （未来基金ネパールフィールド研修の参加者 3 名） 参加者：32 名（芹田代表、室﨑副代表、村上理事も参加） ＊CODE 未来基金合同報告会　*7-(5)と重掲 日　時：2018 年 4 月 1 日（日） 場　所：こうべまちづくり会館 報告者：未来基金フィールド研修（四川）や未来基金インターン、日中 NGO・ボランティア研修交流事業に参加した学生 10 名 参加者：40 名（室﨑副代表、村上、村井理事も参加） ② 他団体からの講師依頼による派遣は以下の通り。 4/29 神戸学院大学「社会貢献学入門」で講義（吉椿）　＊4-(1)と重掲 5/19 神戸女子大学神戸国際教養学科で講義（村井理事）　＊4-(2)と重掲

	5/20 神戸学院大学「社会貢献学入門」で講義（吉椿） ＊4-(1)と重掲 5/23 兵庫県立大学大学院生へ講義（吉椿） 5/26 神戸女子大学神戸国際教養学科で講義（村井理事） ＊4-(2)と重掲 6/2 神戸女子大学神戸国際教養学科で講義（村井理事） ＊4-(2)と重掲 6/7 コープこうべ第 3 地区福祉サークルリーダー連絡会で講演（吉椿） ＊4-(4)と重掲 6/9 神戸女子大学神戸国際教養学科で講義（村井理事） ＊4-(2)と重掲 6/14 JICA－壱基金防災減災訪日団へ講義（吉椿） ＊1-(2)と重掲 6/16 神戸女子大学神戸国際教養学科で講義（村井理事） ＊4-(2)と重掲 6/23 神戸女子大学神戸国際教養学科で講義（村井理事） ＊4-(2)と重掲 6/26 神戸学院大学「社会防災特別講義Ⅳ」で講義（吉椿） ＊4-(1)と重掲 6/28 神戸女学院大学 文学部総合文化学科「ボランティア論Ⅰ」で講義（吉椿） ＊4－(3)と重掲 6/30 神戸女子大学神戸国際教養学科で講義（村井理事） ＊4-(2)と重掲 7/7 神戸女子大学神戸国際教養学科で講義（村井理事） ＊4-(2)と重掲 7/8 兵庫県立大学「防災の国際協力」で講義（吉椿） 7/14 神戸女子大学神戸国際教養学科で講義（村井理事） ＊4-(2)と重掲 7/23 ワンワールド・フェスティバル for Youth 高校生実行委員会で講演（吉椿） ＊4－(3)と重掲 8/1 神戸大学「阪神・淡路大震災 B」で講義（吉椿） 8/3 たつの市社会福祉協議会「ジュニアボランティアスクール」で講演（吉椿） 8/18 日本サッカー協会、ネパールナショナルチームへ講演（吉椿） 8/20 水戸ロータリークラブインターアクト大会で講演（上野） 9/11 舞子高校環境防災科で講義（吉椿） 9/15 神戸学院大学インターン生へ講義（榛木理事） ＊4-(1)と重掲 9/19 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（村井理事） ＊4-(1)と重掲 9/26 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（村井理事） ＊4-(1)と重掲 10/3 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（村井理事、高橋） ＊4-(1)と重掲 10/10 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（村井理事、高橋） ＊4-(1)と重掲 10/12 関西学院大学千里国際高等部で講演（吉椿） 10/17 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（吉椿、高橋） ＊4-(1)と重掲 10/20 NPO しゃらく「ソーシャルビジネス実践セミナー」（神戸女子大学）で講演（吉椿） ＊4-(4)と重掲 10/23 大阪大学吹田キャンパス、豊中キャンパスで講義（吉椿） 10/24 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（吉椿、上野、高橋） ＊4-(1)と重掲 10/31 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（吉椿、高橋） ＊4-(1)と重掲 11/7 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（吉椿、高橋） ＊4-(1)と重掲 11/14 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（村井理事、高橋） ＊4-(1)と重掲 11/21 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（松本理事、高橋） ＊4-(1)と重掲 11/27 PHD 協会研修生へ講義（吉椿） 11/28 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（斉藤容子さん、高橋）＊4-(1)と重掲

	12/5　神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義 （織田峰彦さん、村井事理、高橋）　＊4-(1)と重掲 12/12　神港橘高校「橘タウンミーティング」で講演（吉椿） 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（村井理事、高橋）　＊4-(1)と重掲 12/15　神戸龍谷高校グローバルコースで講演（吉椿） 12/18　関西国際大学セーフティマネジメントで講義（吉椿） 12/19　神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（村井理事、上野、高橋） ＊4-(1)と重掲 12/20　チームひょうごネパール地震報告会で報告（吉椿、高橋）　＊1-(4)と重掲 12/21　関西学院大学人間福祉学部社会起業特論 C で講義（村井理事） 2018 年 1/10　龍谷大学国際特別講義「国際 NGO 論」で講義（吉椿）　＊4-(3)と重掲 1/11　神戸工科高校で講義（上野） 1/15　関西国際大学「セーフティマネジメント」で講義（吉椿） 1/16　神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（村井理事、高橋）　＊4-(1)と重掲 1/24　神戸工科高校で講義（上野） 1/26　神戸工科高校で講義（上野） 1/29　神戸工科高校で講義（上野） 2/3　大学コンソーシアムひょうご神戸「多文化共生から始まる防災・減災と復興」 に登壇（羽田和真さん、上野）＊4-(4)と重掲 2/4　ワンワールド・フェスティバル「高校生・大学生と NGO がつながる方法とは？」 で報告（上野、高橋）　＊4-(3)と重掲 2/16　兵庫県立大学減災復興シンポジウムで登壇（室﨑副代表、吉椿）　＊1-(4)と重掲 3/5　神戸工科高校で講義（上野）

事業名	6-(3) 機関誌及びインターネットによる情報発信
実施日時	機関誌は年 3 回発行、 メーリングリスト、インターネットは随時発信
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	機関誌は全国各地へ約 1000 通発送 インターネットは不特定多数
実施内容	2016 年度 9 月発行の Vol.56 より機関誌「CODE レター」をカラー化し、一定の定評を得ている。2017 年度は、Vol.58（2017/8/31 発行）は 1013 部、Vol.59（2017/12/25 発行）は 987 部、計 2 回を会員と寄付者（リピーター、新規）に発送した。 2013 年度よりインターネットでの広報事業として、Twitter や Facebook などの SNS を利用した情報発信に力を入れ、ホームページも 2014 年度にリニューアルした。 その他 gooddo やソーシャルアクションリングなどの媒体を通じても CODE の活動を広報してきた。＊6－(1)と重複 2018 年 3 月末時点で、CODE の FB に「いいね」をした人は 1407 人である。

	（2015 年度末は 648 人、2016 年度末は 1125 人、2017 年度末 1295 人）

【7. その他本会の目的のために必要な事業】

事業名	7-(1) CODE・AID 設立のための準備
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	2011 年 10 月度理事会で CODE AID を立ち上げることを決定したが、2012 年度になり認定 NPO 法人の取得には最低 2 年以上を要することが判明したため、改めて理事会で議論した。結果、10 周年記念シンポジウムにて立ち上げを発表し、支援の呼びかけを行った。 なお、理事候補は浅野壽夫氏（神戸学院大学教授）、大森保美氏（株式会社大森工業社長）、林晃史氏（弁護士）、芹田健太郎現 CODE 代表理事（神戸大学名誉教授）の 4 名、監事候補は安井一浩氏（公認会計士・神戸学院大学准教授）である。2013 年度の総会および懇親会「CODE の夕べ」には、大森氏および林氏に参加いただいた。2014 年の「CODE の夕べ」にも大森氏はご参加いただいた。

事業名	7-(5) CODE 未来基金
実施日時	2014 年 12 月 10 日～
実施場所	–
受益対象者の範囲及び予定人数	災害 NGO で働く若者、または将来的に災害 NGO で働く事を目指す若者、若干名。
実施内容	これまでの CODE の事業で 3 年以上凍結しているプロジェクト費の総計の半額（約 1000 万円）の資金を活用して、2015 年度 4 月より「CODE 未来基金」を立ち上げる事が、世界人権宣言、および第 1 回神戸宣言の採択の日である 12 月 10 日に承認された。 また、2005 年度から始まった CODE スタッフへの奨学金制度は、理事会の承認を経て未来基金の項目に統合した。今後、該当者がいれば、未来基金としてその都度、対応していく。 ●「CODE 未来基金」の概要 ・主旨：災害救援を主たる目的とする NGO を志す若者に財政的な助成をする事で、若者に学ぶ場、働く場、生き方の選択肢などを提示する。 ・助成内容：以下の 3 部門 1. インターンシップ・・・将来、CODE など災害 NGO で働きたい若者が CODE で有給インターンとして経験を積む機会を提供する。 2. フィールド研修・・・CODE の支援している被災地でのフィールド研修を若者自身が企画、実施する。 3. NGO セミナー・・・様々な分野の講師を招いて行うセミナーを若者自身が企

	画、実施する。 ・基金の財源：CODE の過去のプロジェクト費と寄付金を活用する。 CODE が次世代の災害 NGO を担う若者と育ち合っていく事を広く社会に呼びかけ、サポーターを募る。 ・寄付について：＊一般寄付 個人一口 10,000 円、NGO/団体一口 30,000 円、企業一口 50,000 円 ＊未来基金サポーター 年会費：1,000 円 ・運営・選考：上野を未来基金専従スタッフとして、CODE 事務局が運営を担う。申請案件に関しては、CODE の 4 名の理事および外部選考委員 2 名によって審査を行う。 選考委員：芹田代表理事、榛木理事、山添理事、松田理事の 4 名と西海恵都子（神戸新聞編集局報道部長）、宮本匠（兵庫県立大学）の 2 名の外部委員から構成される。 ●これまでの動きと現状 2014 年 5 月に菊池健さん（社会を動かす研究所、元パナソニック役員）にお知恵を頂き、CSR などに関心の高い企業を数社ご紹介いただいた。5 月末にはスタッフ 2 名（上野、頼政）がグンゼ（株）の CSR 担当者を訪問し、未来基金を運営するにあたって企業側の意見を聴く機会を頂いた。その後も選考委員でもある山添、榛木、松田の 3 名の CODE 理事や企業、学生などの意見を踏まえ、未来基金のしくみ、運営、募集などの検討を重ねてきた。 2016 年度は、榛木理事や村井理事のご協力により事務局ミーティングを 3 回程度行い、寄付やサポーター、参加学生の活用などの議論を重ねてきた。 未来基金のフィールド研修部門は、参加学生も多く、盛り上がりをみせたが、寄付やサポーター会員の獲得に対する動きは鈍かった。参加学生と共に寄付者、サポーターの獲得を戦略的に考えなくてはならない。 ●これまでの実績 下記のように CODE は、これまでに未来基金を通じて、のべ 22 名の若者に被災地のフィールドやインターンで学ぶ場を積極的に提供してきた。また 2017 年度は、インターン第 1 号として高橋大希さん（愛媛大学 3 年生）が、6 ヶ月間 CODE 事務局で共に働いた。 ●これまでの主な動き ＊プレ企画 ・第 1 回日中 NGO・ボランティア研修交流事業への助成 CODE の支援する中国四川省を訪問し、復興の現状視察や被災者との交流、現地 NGO との学び合いなどを通して、次世代の NGO を担う若者を発掘する。未来基金から少額の補助を活用した。

日　時：2015 年 3 月 23 日～29 日（7 日間）
場　所：四川大地震（2008 年）の被災地
参加者：小坂めぐみ（神戸市外国語大学 3 年）、北川和真（神戸大学 4 年）、大西佑季（神戸大学 1 年）、成安有希（関西学院大学 3 年）、中山迅一（佛教大大学）上野智彦（立命館大学、CODE スタッフ）の 6 名

・第 2 回日中 NGO・ボランティア研修交流事業への助成
中国から 3 名の NGO スタッフを招へいし、神戸や中越の被災地を視察・訪問し、日本の専門家による講義を受けた。未来基金から少額の補助を活用した。
日　時：2015 年 6 月 12 日～21 日（10 日間）
場　所：神戸、中越、金沢など
参加者：張国遠（NGO 備災センター）、高圭滋（四川尚明公益発展研究センター）、羅丹（成都根与芽環境文化交流センター）
成安有希（関西学院大学 4 年）、宮津隆太（神戸大学 2 年）、吉崎唯（神戸大学 2 年）の 3 名の若者が中越、金沢に同行
講　師：山添令子（コープこうべ）、室﨑益輝（CODE 副代表理事）、村井雅清（CODE 理事）、渥美公秀（大阪大学）、稲垣文彦（中越防災安全推進機構）、阿部巧（中越防災安全推進機構）、宮本匠（兵庫県立大学）、田中純一（北陸学院大学）、李妍焱（駒澤大学）

＊第 3 回、第 4 回日中 NGO・ボランティア研修交流事業（参加者各 6 名）への未来基金からの助成はなし。

＊フィールドワーク事業
・第 1 号事業：神戸大学生（アイセック神戸大学委員会）による「フィリピンでのフィールド研修」が、2016 年 3 月 30 日の選考委員会を経て採択された。事業は以下の通り実施された。
日　時：2016 年 8 月 10 日～18 日（9 日間）
場　所：フィリピン・セブ島、バンタヤン島
企画者：宮津隆太（神戸大学 2 回生）
参加者：神戸大学生 5 名
（宮津隆太、河村陽菜、佐久間崚平、西本楓、羽田和真）
同行者：上野智彦（CODE スタッフ）
テーマ：「Sign～学生に国際支援の新たな兆しを～」
内　容：被災漁村で生活を共にする中で貧困、教育、生計などの課題を考える。また、現地 NGO へのヒアリングによってフィリピンの漁村の抱える問題を知る。

・第 2 号事業：兵庫県立大学の学生の企画によって CODE の支援するネパールグデ

ル村でフィールド研修が行われた。2016 年 9 月 12 日の選考委員会の協議によって採択された。詳細は以下の通り。

日　時:2017 年 2 月 22 日～3 月 5 日(12 日間)
場　所:ネパール・ソルクンブ郡グデル村
企画者:立浪雅美(兵庫県立大学 4 回生)
参加者:兵庫県立大学、神戸学院大学、愛媛大学の 3 名
(立浪雅美、今中麻里愛、高橋大希)
同行者:吉椿雅道(CODE 事務局長)
テーマ:「Discovery！～未来への可能性を広げよう～」
内　容:辺境のグデル村へ徒歩で向かい、現地の方の声に耳を傾け、暮らしを体験させてもらう。その中から見えてくる生活環境、医療、教育、文化などの課題を共に考える。

・2016 年度 CODE 未来基金フィールドワーク報告会

未来基金を活用してフィリピンやネパール、中国四川でフィールドワークを行った若者たちが、実体験や学びを語り、次世代の若者に刺激を与える場となった。

日　時:2017 年 3 月 26 日(日)
場　所:こうべまちづくり会館
報告者:フィリピン(宮津隆太、河村陽菜、羽田和真)
ネパール(立浪雅美、今中麻里愛、高橋大希)
四川(北川和真、今中麻里愛、成安有希)
参加者:27 名

●2017 年度の動き

＊フィールドワーク事業　＊1－(2)と重掲

・第 3 号事業:神戸大学の学生の企画によって CODE の支援する中国四川省の光明村でフィールド研修が行われた。2017 年 10 月 3 日の選考委員会の協議によって採択された。詳細は以下の通り。

日　時:2018 年 3 月 22 日～3 月 30 日(8 日間)
場　所:中国四川省の被災地(光明村など)
企画者:西本楓(神戸大学 2 回生)
参加者:神戸大学 4 名
(西本楓、田口春香、石川睦巳、久保陽香)
同行者:吉椿雅道(CODE 事務局長)
テーマ:「食による村おこし」
内　容:医食同源の故郷である中国で食や食文化を学び、それを活用して被災地での地域おこしを考える。

＊インターンシップ事業

2016 年度のネパールフィールド研修に参加した高橋大希さん(愛媛大学 2 年生)が

	未来基金インターンシップ第 1 号として申請し、2017 年 8 月 18 日の選考委員会の協議を経て採択された。2017 年 10 月 3 日～2018 年 4 月 1 日までの半年間大学を休学し、CODE のインターンとして共に働いた。主に SNS を活用した広報や若者のネットワーク作り、イベントの運営などを担っていただいた。未来基金ニュースの「だいき日記」でも発信しているように、6 ヶ月のインターンの経験で高橋さんは、NGO の運営や CODE の理念を学んだだけではなく、NGO で働くことを現実的に考え、将来の進路にも大きな影響を及ぼした。 ＊第 1 回サポーターミーティング 日　時：2017 年 7 月 15 日（土） 場　所：こうべまちづくり会館ホール 内　容：未来基金の特色を再認識し、未来基金で若者が実現したいことや企画を考える場となった。 参加者：19 名 *第 2 回サポーターミーティング 日　時：2018 年 2 月 24 日（日） 場　所：神戸市教育会館 内　容：未来基金のサポーターとはどのようなものかを理解してもらい、参加者と未来基金のかかわり方をグループワークによって見つける事ができ、コアなメンバーの顔ぶれも見えてきた。 参加者：17 名 ＊CODE 未来基金合同報告会　＊6-(2)と重掲 日　時：2018 年 4 月 1 日（日） 場　所：こうべまちづくり会館 報告者：未来基金フィールド研修（四川）や未来基金インターン、日中 NGO・ボランティア研修交流事業に参加した学生 10 名 参加者：40 名（室﨑副代表、村上、村井理事も参加） ●寄付、サポーターの状況： 2015 年度：159 万 2417 円（寄付 10 名、サポーター3 名） （＊将学金返済の 50 万円を含む） 2016 年度：206 万 1159 円（寄付 21 名、サポーター74 名） 2017 年度：　80 万 6066 円（寄付 46 名、サポーター95 名） 合計：445 万 9642 円（寄付 77 名、サポーター95 名） 2015 円度末から 2016 年度初めにかけて NHK の番組に出演したことで大口の寄付があ

	り増額したが、通常時の寄付は少なく、基金の年間運営の収支のバランスが取れていない。上記のように、現状としては寄付、寄付者、サポーターは決して多いとは言えない。2017 年 3 月の未来基金合同報告会でフィールド研修の参加者が語る報告は、年齢を問わず参加者の心に響いた。会終了後、参加者のほとんどがサポーターとして登録をした。今後もこのような機会を作ることでサポーターや寄付者を増やしていく。 ＊2017 年度の主な動き 4/3　未来基金ミーティング（榛木理事、村井理事、吉椿、上野） 4/26　2017 年前期未来基金プログラム選考委員会で橋本英奈さんのプログラムを選考 （芹田代表、榛木理事、松田理事、山添理事、宮本匠さん、西海恵都子さん、上野） 5/26　橋本さんと未来基金フィールドワーク打ち合わせ（吉椿、上野） 7/6　橋本さんと未来基金フィールドワーク打ち合わせ（吉椿、上野） 7/15　第 1 回 CODE 未来基金サポーターミーティングを開催 （芹田代表、榛木理事、村井理事、村上理事、吉椿、上野） 7/27、28 CODE 未来基金プロジェクト説明会を開催（村井理事、吉椿、上野） 8/9　未来基金申請希望者とのミーティング（吉椿、上野） 8/18　2017 年度後期 CODE 未来基金インターンシップ選考委員会で 高橋大希さんのプログラムを選考 （芹田代表、榛木理事、松田理事、宮本匠さん、西海恵都子さん、上野） 10/2～3/31 CODE 未来基金インターンシップ高橋大希さん受け入れ 10/3　2017 年度後期 CODE 未来基金選考委員会で西本楓さんのプログラムを選考 （芹田代表、榛木理事、松田理事、西海恵都子さん、上野） 10/13 西本楓さんと未来基金四川フィールドワークの打合せ（吉椿）　＊1-(2)と重掲 11/8　まなびと中山さんと未来基金コラボ企画の打ち合わせ（上野、高橋） 11/9　CODE U-35 会を開催（上野、高橋） 12/22 被災地 NGO 協働センター頼政さんに NGO インタビュー（高橋）　*4-(4)と重掲 1/4　CODE 未来基金広報・ファンドレイジング相談（榛木理事、上野） 1/9　サポーターミーティング準備ミーティングを実施（上野、高橋） 1/16　まなびと石野さんへの NGO インタビュー（高橋）　*4-(4)と重掲 1/17　サポーターミーティング準備ミーティングを実施（上野、高橋） 1/31　西本楓さんら参加メンバーへの未来基金四川フィールドワーク事前説明会 （吉椿、上野）＊1-(2)と重掲 2/2　未来基金申請希望者との打ち合わせ（吉椿、上野） 2/8　神戸ソーシャルキャンパス大福さんへの NGO インタビュー（高橋）　*4-(4)と重掲 2/14　未来基金申請希望者との打ち合わせ（上野） 2/15　未来基金申請希望者との打ち合わせ（吉椿、上野） 2/16　関西 NGO 協議会谷川さんへの NGO インタビュー（高橋）　*4-(4)と重掲 2/21　未来基金申請希望者との打ち合わせ（吉椿、上野） 2/22　西本楓さんら参加メンバーとの未来基金四川フィールドワーク事前学習会 （吉椿、上野）　＊1-(2)と重掲

	2/24　第 2 回 CODE 未来基金サポーターミーティングを開催 （村井理事、村上理事、吉椿、上野、高橋） 2/27 サポーターミーティング振り返り（頼政、上野、高橋） 3/1　報告会を盛り上げよう会を開催（頼政、上野、高橋） 3/2　CODE 未来基金年間計画打ち合わせ（岡田理事、榛木理事、村井理事、上野） 3/5　西本楓さんら参加メンバーとの未来基金フィールドワーク打ち合わせ（吉椿） 3/12 報告会を盛り上げよう会を開催（頼政、上野） 3/16　2018 年度前期 CODE 未来基金選考委員会事前打ち合わせ （芹田代表、松田理事、上野） 3/22～30　CODE 未来基金四川フィールドワークに同行（吉椿） 4/1　2017 年度 CODE 未来基金活動報告会を開催 （室﨑代表、村井理事、村上理事、吉椿、上野、高橋） 4/3　CODE 未来基金年間計画打ち合わせ（岡田理事、榛木理事、上野） 4/5　2018 年前期 CODE 未来基金選考委員会で柳瀬彩花さんのプログラムを選考 （芹田代表、榛木理事、西海恵都子さん、宮本匠さん、上野）